

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

奏 楽 五 十 嵐 美 代 枝 姉 妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 33 : 1 昔 主 イ エ ス の ま き た ま い し

昔 主 イ エ ス の ま き た ま い し い と も 小 さ き 命 の 種

芽 生 え 育 ち て 地 の 果 て ま で そ の 枝 を は る 木 と は な り ぬ アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言：

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 33 : 2 歴 史 の 流 れ 古 き も の を

歴 史 の 流 れ 古 き も の を 帰 ら ぬ 過 去 へ 押 し や る 間 に

主 イ エ ス の 建 て し 愛 の 国 は 民 よ り 民 へ 広 が り ゆ く アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 35 伝 道 開 始 記 念 日

愛と恵みに富たもう父なる神さま、良い知らせを伝える者の足がこの町にもおとずれたことを感謝します。平和の福音を携えた伝道者たちが、走るべき行程を走り抜いてキリストに従ったように、わたしたちも彼らのあとに倣うことができますように。

また、次々と起こされた信徒たちがキリストの証人となったように、わたしたちも、この町に福音を宣べ伝える働きを続けることができますように。

(イザヤ52、フィリピ3、使徒20・1)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 全国青年リトリート 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書6章43-49節(新約聖書114頁)

説教・祈祷 「教会の土台」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 33:3 時代の風は吹きたけりて
時代の風は吹きたけりて 思想の波はあいうてども
全てのもをを超えて進む 主イエスの国はとわに栄えん アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 69 父の御神に 御子に 聖き御霊に
父の御神に 御子に 聖き御霊に
昔ながらの御栄えあれや ときわに アーメン アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老

210502伝道開始記念日 ルカ6：43-49 教会の土台

I 教会の土台はキリストの言葉を聴いて行なうこと

キリストの言葉を聴いて行なえ、すなわち、聖書を忠実に学んでキリスト中心に信仰と生活をしっかり築け、そうすれば、悪い実を結ぶ木にはならないし、土台のない家を建てることにはならないと、主イエスは言っておられます。

ここは、『こどもさんびか』の「かしこい人とおろかな人」というさんびかの箇所です。マタイ福音書の方が歌詞になっているので、岩の上に家を建てた賢い人と、砂の上に家を建てた愚かな人、というさんびです。

「賢い人が家を建てた。岩の上に家を建てた。雨が降って来た。雨が降り水が増し、雨が降り水あふれ、その家はだいじょうぶ。

愚かな人が家を建てた。砂の上に家を建てた。雨が降って来た。雨が降り水が増し、雨が降り水あふれ、その家はペツチャンコ。」

ルカは、「かしこい人とおろかな人」という言い方はしていないのですが、マタイと同じなのは「岩の上に建てた」です。また、マタイと違うのは「砂の上に建てた」ではなく、49節「土台なしで地面に家を建てた」です。

また、「岩の上に建てた」人に関して、ルカは「地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた」と基礎工事の表現が丁寧です。土台がいかにかに大事か、強調しています。

この会堂も基礎工事には時間がかかっていました。早く建物の工事を見たいなあという思いをじらすかのように、地面を掘り下げて土台を作る工事は長いのです。というか、素人には長く感じられるのです。しかし、土台ができると、建物が建てられていくスピードに驚くことになります。

そして、約束の地に約束の民を増し加える神の契約は確かであり、神の御業を賛美することになります。

II 教会の土台

今月は伝道開始59周年です。1962年5月6日、アパートの一室で始まった集会から59年です。上福岡3丁目に会堂が建ててからは57年です。そして、現在の鶴ヶ岡1丁目に新会堂が建ててから14年です。

最初はアパートで3名の礼拝でした。初代牧師夫妻と高齢者の婦人です。それから59年、来年はちょうど60周年です。「新しい出発に備える祈り」が、いよいよ求められるのが今年のテーマです。

さて、教会の土台は、どのようにして造られたのでしょうか。イエス様が言われるように、「地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた」という、霊的な土台は、どのようにして造られたのでしょうか。

それは、教会は、どのようにして誕生したのかという話から始まります。旧約時代は、アブラハム・イサク・ヤコブへの族長契約からイスラエルの民が誕生しました。これが、旧約時代の教会の誕生です。

新約時代の教会は、ルカ文書第二巻の『使徒言行録』に書いてあるように、ペンテコステから始まりました。今年のペンテコステは5月第四主日、23日になります。使徒言行録2章1節の「五旬祭の日」が「ペンテコステ」=50日目です。アメリカの防衛省は五角形の建物になっているので「ペンタゴン」と呼ばれますが、その「ペンタゴン」のペンタが5、ペンテとなると50です。

いつから数えて50かというと、ユダヤ人の過越祭から数えて50日目です。過越祭から7週間、「種入れぬパンの祭」が続くので、 $7 \times 7 = 49$ プラス次の安息日1で50です。クリスチャンとしては、最後の晩餐の日から数えて50日目となります。キリストが十

十字架に架けられたのは、過越祭当日でした。つまり、キリスト御自身が過越の子羊とされた日から数えて50日目、「突然の激しい風」、「家中に響いた音」、「炎のような舌」をもって、聖霊が弟子たちに降りました。そこで教会のカレンダーでは、その日を「聖霊降臨節」と言っており、新約時代の教会の誕生日としています。教会暦ではイースターに続く「ペンテコステ」です。

聖霊が弟子たちに降ったその日、五旬祭のお祭りでユダヤ教徒がエルサレムに来ていたのですが、「この物音に大勢の人が集って来た」とあります。しかし、もっと驚いたのは「めいめいが生まれた故郷の言葉」を耳にしたことです。キリストの弟子たちが、集って来た人たちめいめいが分かる言葉でキリストの福音を語り始めたからです。

集って来た人たちのリストは「天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたkatakountes」とありますので、これは元から住んでいるのか、祭の期間だけの長期滞在かです。また「パルティア、メディア、エラム・・・などに住む者もいるkatakountes。またローマから来て滞在中の者epideemountes、ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もいる」とあるので、ふだんは周辺の外国に住んで、祭の期間だけ滞在する人が多いようです。古代文明発祥の地、メソポタミアを中心に、地中海周辺です。

すると、だんだんヘブライ語が分からなくなった、離散したユダヤ人だけでなく、「ユダヤ教への改宗者」もいますので、もともとヘブライ語が分からない人々もいます。したがって、「突然の激しい風」、「家中に響いた音」、「炎のような舌」の内、いちばん驚いたのは「炎のような舌」によって起こった現象です。

「炎のような舌」は、炎に意味があるのではなく「舌」に意味があります。舌すなわち、言葉です。ペンテコステの日、伝道は、めいめいが分かる言葉によって始まりました。その後、聖書の言葉は、世界中の言語に翻訳され、伝道が展開されていきました。

Ⅲ 上福岡教会の土台

すなわち、伝道の歴史は、聖書翻訳の歴史でもあるのです。今、私たちは日本語の聖書を使って礼拝をしています。これは聖書翻訳の歴史と共に起こった出来事です。だから、「言葉」と言っても、聖書から神の偉大な業＝キリストの出来事を語るものでなければ、聖霊なる神の霊は働きません。

聖書からキリストを語れば、聖霊に満たされて、霊が語らせるままに説教がなされます。説教とは牧師のお説教ではなく、今語られる神の言葉です。生きておられるキリストが、今、聖書からメッセージを語っておられるのです。これが教会の土台です。

「教会」という言葉の意味を教えてくれるピタツリの言葉は、ペンテコステの日、弟子たち「一同が一つになって集っている」ことです。これが教会です。まさに、今、私たち一同は動画配信によってでも集まって礼拝をしているのです。来週から少人数で集まる礼拝が再開されますが、建物が建っていても礼拝する人が集らなければ教会にはなりません。

ペンテコステの日、キリストの弟子たちは「キリストの死と復活を信じて洗礼を受けよ」と宣教しました。すると一日で3000人の洗礼者が起こされました！ しかし、キリストの十字架の場面では、弟子たちは逃げたので、いったん信者は0になりました。ゆえに、一日で3000人の洗礼者とは奇跡です！ 逃げた弟子たちは復活のキリストにお会いした後、死刑になることを恐れずに、イエスこそキリストと証言し始めたのです！ そして今日まで2000年、キリストの弟子は世界中に増えてきました。

今ここにも、始めの3人から100人を越える礼拝になった、神の出来事があります！ この町でも59年間、神の言葉が語られてきました。これからも語られます。教育的伝道とは、地面を深く掘り下げるように土台をしっかりとさせることです。それは御言葉と聖霊によります。